



みさ子さん

私が赤倉に嫁いできてから、ずっと気になっている方がいる。

自転車で集落内を走り回り、気がつくとう玄関先でお茶を飲んでいたり、マルコメ商店で買い物していたり、温泉に入っていたり。見ない日はないんじゃないかと思うほど、とにかくいつでも元気に飛び回っているのは「みさ子さん」という73歳のお母さんだ。

赤倉ゆけむり館の産直に並んでいる商品に、みさ子さんの名前を見ない日はない。
自家栽培の野菜はもちろん、季節ごとの山菜や木の実、山野草を取ってきて鉢に植えたもの、庭に咲いている花を束ねたもの、自分で着物をリメイクした羽織や、編み物、吊るし飾り：そのラインナップは多岐にわたる。
そんなみさ子さんを商売人として尊敬の眼差しで見ているのだが、話を聞いてみると単なる商売では片付けられない理由があった。

——みさ子さんは商売上手ですよね。どんなものでも商品にしちゃう才能がある。

ほんとのこと言うと売りだぐないのよ。
けったい（あげたい）のよ。褒めてもらいたい。褒めてもらうの大好きだから。

けれども人にけるっていうことは失礼でもあるし、倍返しされんのよ。そうすつと、もらった人も大変だし。例えばそのへんの人さ、けつてあるぐべ。そうすつと「ないだて大変だったべつちや〜」ってなって、豆腐だの納豆だの卵だのよ〜すんだ。そうすつとかえつてもらった人の方が高くつく。

だから少しお金をいただいて、お互い様でやってる。ほんとは縫ったものもけつたいのよ。でもそこまです

たんでは、かえつて気使うべ。

——みさ子さんは料理も上手ですよね。何を作らせても美味しい。

昔からやつてることに今のアイデアを足してみだりしてんなら。ごま油をちよつと足してみたり、醤油を味噌にしてみたり。

でも、料理はつくくんねどだめ。つくくんねど覚えらんね。最初はうまぐいかなくてよく失敗も多いさけな。やっぱり数すねとわがんね。

お葬式とかで人集まっど、腕のいいのがいんのよ。最初だまつてみてんの。でも、どこかでぼろつと落とすことがあるのよ。女つつうのは欲があつて、教えつたくない気持ちもあるから。こそこそ話していることを聞き耳立てて覚える。それで、次にそのことをあたかも自分が発見したみたいにして人さ教える。それもまた気持ちのいい話だよ。

ものを教えたりすると親近感を与えるっていうがよ。
「みさ子さんは何でも上手だ」となって鼻高々になる。そういうのつて楽しみだべつちや。女の楽しみ。自慢にもなつしよ。

——色んな所でお茶飲みしている姿を見かけますね。

そろそろお盆だねや〜とか、お茶飲みながら会話が出る。そうすつと、「〇〇ないでや」となる。私何でも商売のために持つてつから「〇〇持つてるよ」となる。他よりも安く分けてやつと、お互い得して楽しみになる。

お盆近いからつて花集めて売つたりすつと、「うまいもんだ」と皆言うわけよ。でも、たまたま物があつた

から売つてるだけ。必要なものや時期がわかつて何でも全て用意してるもんだから、すぐ「あるよ」つて譲つてやれる。

みんな私がいつ何を作るか知つてるから、「赤飯余計ふかして分けてけんねか〜」と。「んなら具入つていくらでいいか〜」つて。欲たかつて余計とるつてことでねく。そんなに高く取んない。でも私の商売は人を見てやりとりしてんなら。一人暮らして「楽でねのよ〜」つて人にはガス代だけでもらつたりね。

みんなに「良かったや〜」、つて言われるとそれに越したことはない。みんなの楽しみにもなつてるしよ。
一回喜んでもらえれば、花の種でもなんでも、なんとかして手に入れてきたりしてな。

自分はなんでもやさん。笹巻きもすつべし、赤飯もすつべし。なんでもすつから頼まれたらすぐ対応できるように材料だけは常に確保してんなら。

——そうやつてみさ子さんは人生を豊かにしてきたんですね。

おらその方が面白いもんね。何か手伝いあれば、みさ子さん頼む〜つてなるしよ。それも楽しみのひとつ。好きなこととして走つて歩けるつて最高の人生だね。

2020年8月11日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

情報提供や山崎とお話したい方は「連絡ください

電話080-3256-1134

メール hayakawamiyage@gmail.com